

平成28年度 全国学力・学習状況調査 結果分析票

学校名：志木市立 志木第三 小学校 第 6 学年			
項目	成果	課題	改善策
国語A	<p>○国・県・市の平均正答数を約8～9%上回った。</p> <p>○「書く」「読む」「言語事項」とも国や県を上回った。特に「書く」「言語事項」については大幅に上回り、これは感想や意見など書く活動を多く取り入れていることと、漢字テストなどを計画的に行っている結果と考える。</p> <p>○学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書いて読むことができる児童が多い。</p>	<p>○「話す・聞く」が国・県を約2～3%下回った。「どのように話し合っているのか、話し合いの説明を選択する」問題の正答率が低かった。目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合うことが苦手である。国語の学習だけでなく、考えを伝え合ったり、話し合ったりする学習を意図的に取り入れて力をつける必要があると考える。</p>	<p>○言語環境を整える。(学習環境を整えることにより、児童が発言しやすい場とすることができると考える。)</p> <p>○国語に限らず、意図的・計画的に、話したり聞いたりする場をつくる。</p> <p>○年間を通してスピーチ活動を行っていくことで、児童の話す力を高める。</p> <p>○国語の授業を通して、ワークシートを活用したり話し合いの手引を活用したりすることで、言語活動の充実</p>
国語B	<p>○国・県・市の平均正答数を約2～4%上回った。</p> <p>○「話す・聞く」「書く」「読む」「言語事項」すべてにおいて国・県を上回った。特に評価の観点のうち読む能力についての問題は全て平均正答率が県や市を上回った。</p>	<p>○相手への質問の意図を捉えたり、図の結果を基に書いた内容から適切なものを選択する問題の正答率が低かった。グラフを基に、分かったことを的確に書くことが苦手である。</p>	<p>○文章自体の読み取りができないのか、回答の趣旨が分からないのかを分析し、物語や説明文の学習の際は丁寧に指導をし、考えて書く学習を意図的に多く行う。</p> <p>○具体的な事例を挙げて書くことを指導する。</p> <p>○年間指導計画を活用し、重点を反映させる。</p> <p>○授業以外でも書く活動を設定する。</p>
算数 数学A	<p>○平均正答率は国・県・市を約2～3%上回っている。</p> <p>○計算式の答えを求める問題の正答率は高い。基本的な学力は身につけていると考える。</p>	<p>○数量関係の正答率が全国を0.1%下回った。</p> <p>○全体では正答率は上回ったが、設問の正答数を細かく見ると全体の4割程度が下回っている。特に割り算をはじめとする1あたり量、割合などを求める計算を苦手としている。</p> <p>○少数の割り算が56.6%と国を8%以上下回った。</p>	<p>○数量の関係を図や模型などを使って視覚的に正しく捉えさせる。</p> <p>○問題を解く際は、おおよその見当をつけることを徹底する。</p> <p>○基準となる数を基に小数や分数を相対的にとらえさせる。計算の確かめをする。</p> <p>○算数学習コーナー等の活用をする。</p>
算数 数学B	<p>○平均正答率は国・県・市を約1%上回っている。</p> <p>○量と測定、図形の領域では約3%国と県を上回っている。</p> <p>○乗法、除法の式の意味を解釈する問題の正答率が高い。</p>	<p>○全体では正答率は上回ったが、設問の正答数を細かく見ると全体の4割程度が下回っている。</p> <p>○無回答率も高い。特に、示された式の中の数値の意味を解釈し、記述する問題においては無回答率が26.3%と高かった。</p> <p>○理由を書く問題では平均正答率では上回っているものの無回答率も高く、できる、できないの二極化が大きい。</p>	<p>○基礎基本の定着を図り、普段の授業からなぜそうなるのかをノートに書かせるなど繰り返し行い、無回答がないようにする。</p> <p>○ペア、グループ活動を行い、自分なりの考えをもち、それを相手に説明できる場面を多く設定する。</p> <p>○特色化教員とのT・Tを生かした授業展開の工夫を図る。</p>
児童 生徒 質問 紙	<p>○学校に行くのは楽しいと答えている児童が多い。</p> <p>○人が困っているときに進んで助けると答えている児童が多い。</p> <p>○読書は好きだと答えている児童が多い。</p> <p>○国語・算数とも勉強の大切さを自覚し、好きだと答えている児童は多い。</p>	<p>○学校の授業の予習をする習慣があまり身につけていない。</p> <p>○寝る時刻が遅い。</p> <p>○土日、平日の家庭での学習時間が少ない。</p> <p>○図書館の利用は比較的少ない。</p> <p>○全く読書しない児童が2割いる。</p>	<p>○読書自体は好きな児童が多いので、朝読書など読書をする時間を確保したり、計画的意図的に学校図書館、地域図書館を利用するような働きをする。</p> <p>○学習を継続する意義を確認し、家庭との連携も図る。自主学習など家庭での学習の仕方を示してあげる。学年×10分を家庭学習の時間の目安とする。</p>

